

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000190		
法人名	有限会社 ユニット・ワン		
事業所名	グループホーム ユニットぐんちゅう		
所在地	伊予市米湊西窪1131-3	(電話)	089-946-7677
自己評価作成日	平成22年 10月 5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者一人一人を大切に、職員は毎日笑顔で接し、コミュニケーションを大切にしている。利用者の希望や悩みごとを聞きながら、本人の意向・生活を大切に支援している。②地域の方々との輪を広め、つながりを大切にしている。幼児園児から、高齢者まで地区の方々の訪問・ボランティアあり、多い月には40名以上が来られ、利用者との交流も深まってきている。地域の方にグループホームを知っていただくことにより、より認知症に対する理解も深めていただこうと思う。③伊予農業高等学校 生物工学科の生徒さんの園芸セラピーを受けながら、植物に触れることにより、癒しの時間が増えている。若い高校生との触れあい・先生とのおしゃべりも楽しい時間となっている。一緒に畑を耕したり、収穫をすることにより、今後もゆったりとした心豊かな時間が増えることを期待している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路沿いの、周囲に自然が残る静かな郊外に建てられた2ユニットの平屋である。玄関まわりの前庭には、近くの高校の協力による園芸療法の家庭菜園が広がっており、季節ごとの野菜を入居者とともに育てている。シンボルツリーのような柿の木は、赤く色づいた実が枝いっぱい実り、今年も入居者と干し柿作りをするための収穫の時を待っている。入居者個々の特技を活かせるよう、職員が支援を行っており、一人ひとりと向き合える時間を大切に考えている。自然の光が射し込む吹き抜けのリビングは入居者同士の憩いの場になっており、絶えず人の話し声や笑い声が心地よく響いている。毎朝、体操を2ユニット合同で行っており、ホーム内全体で交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ユニットぐんちゅう

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)
氏名 武智 美知子

評価完了日 22 年 10 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で話し合った後、「その人らしく安心して地域の中で馴染みのある生活を支援する」という地域密着型理念をつくり、スタッフルームの目につく場所に貼り出し、全員が理念を共有できるように努めている。日々の介護の中で細かい情報の共有を図りながら、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 理念の実践につなげるために、職員全員で話し合いを行い、毎月目標を立てている。事業所の理念、毎月の目標は日頃から目に触れる所に掲示し、毎朝ミーティング時に唱和し、職員全員の意識に浸透させている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 数年前より米湊地区にも組入りし、総会や研修会・文化祭の行事等にも積極的に参加している。回覧板を回すことにより、コミュニケーションに努めている。地区の住吉祭踊りには毎年参加、折り紙教室にも毎回参加し、地域の方々とのつながりを大切にしている。又、愛護班活動にも毎回協力している。</p> <p>(外部評価) 集会所で行われる催し物に参加したり、高校生による園芸療法の実施、同法人内のホーム協同で行う運動会や秋祭りなど、季節行事を通じて近隣住民との交流を図っている。また、ストーンアートや姫だるま作りなど、ボランティアの受け入れも盛んで地域とのつながりが定着してきている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 面会者や訪問者、ボランティアの方に、認知症の人の理解や支援方法をわかりやすく話し、協力を求めている。又、地域運営推進会議でも話をし、一緒に食事等しながら触れ合う機会を持ち、利用者がより安心して生活できるように努めている。愛媛新聞の「認知症の理解」の切り抜きノートあり、希望者に開示している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度の会議では、その間の主な行事を報告し、写真 を見てもらって利用者の生き生きと生活している様子を知っ ていただいている。又サービス評価の結果報告を毎年行い、 参加者より意見・助言をいただいて、サービスの向上に活か している。家族からの意見も大切にしている。	
			(外部評価) 会議を通じて、災害時の協力依頼や役割分担を行ない、ま た、行事に合わせて開催することで入居者とコミュニケー ションを図る機会を設けるなど、開催時期についても工夫さ れている。司会進行を職員が交替で行っており、職員のスキ ルアップにも繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市からの文書は確認を行い、市開催の会議には毎回参加し、 疑問点は質問し連絡を密に取っている。毎月入居予約状況 を名簿作成し、市役所にFAXしている。事故が起きた場合 には、事故報告書・今後の取り組み方針を提出している。地域 運営推進会議にも毎回市役所長寿介護課からの出席者あり、 顔馴染みとなった。	
			(外部評価) 毎月、入居者やボランティア受け入れ状況等について報告や 連絡を行っている。市を挙げて熱心に会議や勉強会が開催 されており、情報交換や相談など交流が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員勉強会にて身体拘束に関する具体的な行為を再確認し、 廃止に向けて日々取り組んでいる。身体のみならず言葉かけ にも気を配り、言葉による拘束もしないケアを行っている。 ただ、以前に行方不明者が出て社協他捜索願いを出したこと がある為に、必要時のみ玄関の施錠をさせていただいて いる。	
			(外部評価) 身体だけでなく、言葉による拘束も行わないよう職員が理解 して心がけている。不穏な行動がみられる時には、職員が付 き添って歩いていくこともある。安全面から、必要最低限の 範囲で玄関の施錠は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し知識を広めている。新聞・ニュース等での事件に関し、その都度ミーティングをし防止策について話し合っている。管理者から日頃より接遇に気をつけ尊厳を守る事の大切さの教育あり。他、利用者・職員から相談の機会あり。日頃から利用者の身体観察に努めている。又、元民生委員の来訪で相談の機会多い。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社協にて金銭管理を依頼している利用者あり。心配事には親身になって相談にのり、家族・社協担当者との連携を図っている。権利擁護に関する研修等には参加し、その後事業所内研修を開催し、職員間で知識を共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書に沿って内容を十分に説明し、質問にはわかりやすく説明し、不安や疑問が生じないように努めている。家族に納得して頂き同意の上書面に契約手続きをしている。又利用中の料金改正・契約内容の変更があれば、その理由を説明の上、同意を得ている。経済的に不安のある家族にも親身に相談にのる様、努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域運営推進会議の定期的な開催やイベントには、家族にも参加して頂き、その際 率直な意見を頂いている。日々の生活の中で、利用者の意見・希望を大切に受け入れている。又遠慮されがちな家族や外部の人の為意見箱を設置し、より多くの意見・要望が出してもらえよう配慮している。これら意見を前向きに反映させている。 (外部評価) 運営推進会議に参加される家族が、毎回決まった方にならないよう配慮し、意見が聞けるようにしている。行事案内は必ず行っており、面会時や行事参加の際に、管理者からも声かけをし、要望について聞くようにしている。家族会についてのアンケートを行い、家族の希望を聞いており、家族会開催に向けて、準備の段階にある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	<p>(自己評価) 毎月1回のケアカンファレンス時には職員の意見を聞き、定 期的なホーム長・主任リーダー会議等で代表者に伝え、改善 すべき事は改善している。又利用者からの意見も伝えてい る。代表者・管理者は日頃から困っている事はないか、一人 一人に聞く姿勢を持つようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、パートを含む全職員参加の会議でも意見を聞いて いるが、個別の意見や要望も大切に考え、日頃から話をする 時間を設けたり、聞ける姿勢を常に持っている。職員から出 た要望や意見は、法人で行われるホーム長会議で検討されたり 、法人代表に管理者から伝えられている為、職員は管理者 を信頼して発言できている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	<p>(自己評価) 資格取得を勧め、資格取得者には手当での支給あり。代表者 は管理者を通し、職員個々の努力・実績・勤務態度を把握 し、昇格・昇給等につなげている。又個々に提出した研修報 告書等でも、能力を把握している。よって職員は向上心を 持って毎日働いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 代表者は各職員へ 資格取得・研修参加を積極的に勧めてい る。実践者研修等、日勤扱いで研修に参加している。職員全 員がホームヘルパー2級以上の資格を取得できるよう、勤務 体制を整えながら、研修に参加させている。毎月ケアカン ファレンス時には、認知症の理解に関して勉強会を開いてい る。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協議会に加入し、伊予市グループホーム協議 会主催の研修会・行事には毎回参加している。顔なじみとな りつつある同業者と、意見交換・情報収集をしながら、交流 を深めている。相互研修にも参加しており、以前行った相互 研修先と現在も交流あり。同会社内のグループホーム間でも 相互研修を行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の事前アセスメントには十分時間をとり、本人・家族 の思い・希望を十分聞き取る努力をしている。初期段階で 環境の変化に戸惑わないよう、本人に寄り添いながら、ゆっ くりと話す機会を設けて、安心して生活していただけるよう 支援している。十分な観察により、表情の変化に気付くよう にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の希望を聞き、それを情報交換ノートに明記し、職員間での情報の共有を図り、家族が安心できるように努めている。面会時には職員一人一人が、家族と挨拶しコミュニケーションをとりながら、本人の気持ち・状態をまめに連絡している。万一家族間、本人と家族で意見の違いがあれば、プライバシーに配慮して相談している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 通所介護ではお試し日の利用もでき、体験していただいている。できる範囲で本人・家族が必要としていることを見極め、担当ケアマネージャーとも密に連絡を取り合っている。又主治医と相談をしたり、鍼灸の訪問治療も開始するケースもあり、家族等と相談をしながらすすめていっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 毎日の掃除・調理・洗濯物・手作業等、本人のできる力を十分発揮していただきながら、みんなの役に立っているという、充実感を持っていただいている。排泄介助時でも、本人の持っている力の発揮により、職員も助かっていることを伝え、より良い関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) いつでも面会に来ていただいている他、行事・イベントには家族へも連絡をとり、本人と一緒に楽しんでいただきながら、共に本人を支えていく関係を築いている。毎月家族への近況報告をし、要望事項等あれば連絡・相談し、共に本人を支えていく関係作りを築いている。手紙他にて、家族からの返事等あり。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き、伊予市内へのドライブ・行事にも参加できるように努めている。誕生日企画では計画と一緒に立て、馴染みの場所へ行ったり会いたい人と連絡を取り合っている。季節毎に絵葉書をつくり、家族や知人へ出している。本人の希望にできるだけそえるように、職員間で話し合い、実行してきた。毎月1度帰宅し空気入れ替え近所の方のおしゃべりを楽しむ利用者あり。 (外部評価) ほとんどの方が地元からの入居であり、昔馴染みの環境の中、生活されている。行きつけの理髪店が、入居後は訪問してくれたり、希望の理髪店に行く場合は職員が支援し、関係が途切れないようにしている。職員の異動も数年なく、入居者もこの1年間で1名の退去のみで顔馴染みの関係作りが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) この一年間の退去者は一名にとどまり、利用者同士すっかり顔馴染みになっている。頂き物をお裾分けしたり、部屋に招いて話をしたりする場面が多く見られている。又リハビリ運動時には互いに励まし合う事もあり。職員が間に入ることで、助けあったり話をするきっかけづくりができています。常に気を配り場の提供をしたい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院により、退去となった場合でも職員は見舞いに行き、家族の相談にもものっている。ショートから、通所介護に変わった場合は家族や担当ケアマネとも密接な話し合いを十分に持ち、本人のために相談・支援をしてきた。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 被害妄想、体調不良を常に訴える利用者あり。1対1でゆっくり時間をかけて本人の話を傾聴することで不安解消に努めている。また、家族や元民生委員の協力を得て、本人が安心して生活できるよう支援している。 (外部評価) 担当者制だが、全員が情報共有出来るよう、利用者ごとに気づきや要望など、詳細に記載されたファイルを整備し毎日申し送っている。日頃から入居者との時間を大切に、個別に話せる時間や場所をつくっている。疎通が困難な場合でも家族に開いたり、表情やしぐさから汲み取ろうとするなど、努力が伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの生活歴を知る為、本人・家族やケアマネージャーに情報を提供してもらっている。面会時もコミュニケーションをとりながら、あせらず情報の把握に努め、利用者本人の背景を知るようにしている。こちらからも面会時や毎月の家族へのお便りにて近況を知らせ、安心していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別に一日の過ごし方を記録し、本人の有する力・理解力をレクレーションや日々の生活の中で引き出し・再発見し、申し送り帳に書くなどして、職員全員に情報提供し全員が把握するようにしている。又家族へも面会時写真を見せたり、近況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 日頃の関わりの中で本人や家族の思いや意見を聞き反映させるようにしている。朝夕の申し送り時や日々の話し合い、月一回のミーティングの中で本人の状態やケアに対する気づきを伝え合い、意見交換やカンファレンス等を行っている。毎月のモニタリングを担当者が行っており、新たな課題がある時は随時話し合い対応を決めている。</p> <p>(外部評価) 家族からの意見も聞き入れながら、情報共有のファイルの内容と共に、職員全員で検討している。目標の達成度について、1つ1つ利用者から評価を受け、担当職員の評価と総合し、毎月プランの見直しを行っている。3ヶ月に1回は、達成度に応じて現状に即したプランに立て直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 本人の言葉を大切に記録している。朝夕の申し送り時や申し送りノートを利用してその情報や気づきを共有し、本人の言動に込められている思いを皆で考え、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在、認知症対応型通所介護を1日3名まで受け入れている。家族の要望があれば、10時間まで延長して利用できる。入居者が入院中は家族の了解の上、ショートを受け入れもしている。本人の状態や家族の状況に応じ、福祉用具の購入・通院・買物・美容院・墓参り等の同行送迎を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 日常生活自立支援事業利用の方が安心して生活できるよう社協との連携を密にしている。民生委員との関わりで敬老会に参加でき、馴染みの方との再会を楽しんだ。馴染みの理髪店に通えるよう支援している。伊予農生のボランティアも馴染みの関係になり楽しみにしている。年2回は消防署員の立会のもと、避難訓練を行っている。地域の公民館での作品展には毎年出品して展示しており、地域の方の作品を見に行く事を楽しみにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>主治医とは毎日のように連絡を取り合い、定期的な訪問診 療・往診他行っている。主治医以外の専門医(歯科・眼科・整 形外科・泌尿器科)にも、必要時には本人・家族と相談の上 受診している。本人の病状・状態を報告し、適切な医療が受 けられるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>希望する医療機関で受診できるように支援している。家族が 同行できない場合は職員が支援を行っている。受診結果は情 報共有のファイルに記載され、全職員が状態を把握できるよ うにしている。協力医の往診が月2回あり、定期健診も実施 している。協力医と連携を図りながら、適切な医療が受けら れるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>毎日2回のバイタル測定により、異常の早期発見に努めている 。介護職員は看護師に日々の利用者の状態を報告・相談を 行い、異常時には病院へ連絡を行い、主治医の指示を仰ぎ、 受診や往診を受けられるようにしている。訪問診療時にも医 師・利用者につき添い、適切な診療を受けられるようにして いる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、職員が同行し病状・ADL・GH内での状態等を病院関 係者に情報提供している。定期的に見舞いに行き本人の慣れ ない場所でのストレスや負担を軽減し安心できるよう支援し ている。また、本人・家族の相談にも応じている。退院時に は、病院関係者から得た情報を職員間で検討し受け入れ体制 を整えている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に「看取りについて」の書類に選択項目があり、確認 を取っている。病状が悪化した場合には、再度 家族に確認 し相談をしている。主治医から家族に状態説明し本人・家族 の希望等を聞いている。事業所で出来ること・出来ない事 の内容を家族に伝えている。ターミナルの指針を備え看護師は 24時間体制となっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>外部の研修会で得た知識は、事業所内でも勉強会を行い、職 員間で共有している。事業所として看取りの経験はないが、 法人で看取り指針を作成し、方針について家族に説明を行っ ている。入居者に対する職員の気持ちは強く、個人の希望を 叶えたい思いはあるが、指針で掲げている内容と事業所に対 応できる実情には温度差がある</p>	<p>重度化した場合の、利用者・家族の思いや意向と、事業所 での対応が一致するよう、方針の明確化が望まれる。出来ない ことの明文化により、さらなる職員間の意識統一を期待した い。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 一日二回のバイタルチェックや状態観察にて、異常の早期発見に努めている。消防署で行われる救命講習を職員全員が受講できるよう交代で受けている。ミーティングで看護師による応急手当や初期対応の指導あり。夜勤帯の緊急対応時では、緊急連絡網に従いスムーズな対応ができています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域運営推進会議で話し合いあり。災害時の避難先・避難方法を確認し協力依頼を行った。避難訓練は、年2回消防署員立会いの元行い避難誘導・消化訓練等 職員全員が勉強した。近隣の方の参加も増えている。非常用持ち出し袋を備えており飲食料は消費期限の確認を行っている。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと、夜間・昼間を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議を活用し、近隣への協力依頼を行い、住民・民生委員との取り決めや相互協力の関係作りを行っている。入居者にもビデオ学習を行うなど、全員で取り組もうとしている姿勢が伺える。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進んでいる利用者にも、否定せず理解していることを示しながら対応している。接遇に関して気になる時には、その都度 管理者からの教育あり。訪室時のノックはもちろん着替え・トイレ・入浴時の対応には特にプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。個人的な話をする時は本人の居室で行っている。 (外部評価) 排泄時や入浴時など恥ずかしい思いをさせないように声掛けにも注意を払っている。馴れ合いにならないように職員間同士でも注意しあっている。個人を尊重し、職員が判断するのではなく、本人の意思確認を行ってからケアに当たるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中からだけでなく、本人のちょっとした表情にも気を配りながら何を思い何を希望しているのかを把握している。誕生日企画には、自己決定が出来るよう働きかけている。集団の中では自分の気持ちを表現出来ない方や遠慮がちの方には、1対1で話す場を作り希望等を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの一日のスケジュールはあくまで目安であり、利用者のペースを優先した支援を大切にしている。健康体操・レクリエーションの参加は、強制ではなく本人の気持ちを大切に考えている。起床・就寝時間は本人のペースで、食事時間にも食欲の無い方には、時間をずらす等の配慮をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出や誕生日等の特別な日には、本人の好みのその人らしいおしゃれを楽しんでいただいている。カットや毛染めの際には、必ず好みを聞くようにしている。よく似合って素敵であると褒めてさしあげる。自ら洋服を選ぶ事が困難な場合にも何点か用意し表情を伺うようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下準備や配膳、盛り付け等 その人の能力を大いに発揮していただけるよう声掛け、セッティングをしている。車椅子利用者には、お盆拭き・テーブル拭きができるよう支援している。一緒に作るおやつ作りも楽しみのひとつである。食事は職員も一緒にとり楽しい会話をしながらいただいている。毎月15日は、利用者に食べたい物を聞いて献立を立てている。 (外部評価) 入居者がそれぞれ役割を持って協力し合いながら、準備や後片付けを行っている。食事中も職員や入居者同士の会話があり、和やかな雰囲気である。献立は栄養士が作成しているが、毎月15日は入居者の希望を聞いてメニューを決め、買物から一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主治医の指示に従い栄養バランスの偏りのある利用者には、エンシュアやパナを摂って頂く。日々の記録をチェックしながら食事時以外にも朝の体操後、午後のおやつや必要時 舌の状態観察をしながら水分確保に努めている。夜間は各居室にペットボトル・やかん・コップ・吸い飲みをそれぞれに合わせて用意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアの支援をしている。介助が必要な利用者には、セッティング・声掛け・介助を行っている。就寝時には、入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。定期的にコップ・歯ブラシのチェック・消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれの排泄のリズムを把握し、またしぐさを観察し、失禁なくトイレで排泄していただけるように声掛けし、誘導を行っている。夜間、おむつ使用の利用者でも訴えがあれば、トイレ誘導を行っている。夜間のみPWC利用者3名。排泄後の清潔保持に除菌ウェットティッシュを用意している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>個別に排泄記録を行ない、排泄のリズムを把握しながら自立に向けて、トイレ誘導を行っている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎日排便の有無を確認し記録している。便秘の者には看護師と相談しバナ・ヨーグルト・繊維質の物を食べていただく。無理のない範囲で散歩・運動をすすめている。頓服の便秘薬を用意しており、必要時服用していただく。訪問診療にて浣腸をすることあり。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>2日に1回のペースでゆっくりと入浴をしていただいている。時間は本人の希望を聞き、その時間帯になるべく入浴していただけるようにしている。体調が悪く、入浴が出来ない日でも、本人の希望があれば足浴、清拭・洗髪を行い、清潔に過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2日に1度のペースで入浴を行っており、朝10時半から夕方17時までの時間帯で希望に沿って対応している。入浴拒否の場合も、タイミングを見計らいながら声掛けに工夫して対応している。個人の状態に合わせて支援しているが、安全が確認できた場合は、一人で湯船に浸かる時間を設け、入浴が楽しめる配慮を行っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>就寝時間は、利用者本位としている。夜間だけでなく、日中でも利用者の希望があれば、いつでも休んでいただけるようにしている。訴えない利用者でも、表情を観察し、声掛けで休んでいただくようにしている。居室の証明・温度調節にも気を配り、気持ちよく休んでいただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の処方箋を個人ファイルに毎回綴じて、職員のたれもがいつでも確認できるようにしている。新しい薬の開始時や終了時は、連絡ノートに記入し、全職員で情報を共有している。服薬時の見守り確認を確実にやっている。状態に変化がある時は、すぐに看護師や主治医に相談して対応している。飲みやすいようオブラート使用の者あり。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味の歌や大正琴が継続できるよう、支援している。洗濯物干し・たたみ・配りや、料理の下ごしらえ・配膳等生活の中で得意な事で力を発揮できるよう支援している。歌や塗り絵・ドリル・製作等できることを楽しめるような支援をしている。いろいろなゲーム等のレクリエーションで人との関わりも楽しめるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候のよい時には、庭に出たり近くを散歩して、自然を体中で感じて頂けるよう支援している。また、近所の方との触れ合いも大切にしている。地域の集会所で行われている折り紙教室にも毎回誘いあり参加している。誕生日には本人や家族とも相談して、できるだけ本人の希望の場所に行けるように支援している。2週間に1度「買物の日」とし商店街やスーパーに出かけている。 (外部評価) 家庭菜園の手入れをしたり、洗濯物干しなど、日常生活的に外に出て外気に触れている。近くを散歩したり、スーパーへ買物に行くなど、近隣住民とのつながりも大切にしている。誕生日には担当者が、行き先や食事、プレゼントに至るまで全行程、本人の要望を踏まえながら企画し1対1で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望を大切にし、家族と相談のうえ、本人に所持して頂いたり、小額を預かり必要な時にお渡ししたりしている。2週間に1度「買物の日」を設け近くのスーパーや商店街に出かけ必要なお金を使えるよう支援している。なるべく金銭の授受は本人にして頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時、電話をかけて話ができるようにしている。年末には年賀状を希望者には書いていただき、家族とのやりとりを楽しんでいる。自分から書かれた手紙やスタッフに勧められ書き上げた手紙等速やかに届けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を生けたり、絵画をかけたり、利用者さんと一緒に大型カレンダーを毎月作ったりして室内でも季節を感じてもらえるよう工夫している。エアコンの温度調節をこまめに行い、利用者が気持ち良く過ごせるよう配慮している。清掃時等換気には気をつけている。また、歩行の妨げとなる障害物を置かないよう環境整備に気をつけている。</p> <p>(外部評価) 玄関や居間など、季節の花が飾られ、入居者の作品からも季節感漂う工夫がされている。居間で過ごされる方は多く、入居者同士や職員との談話で心地よい音に囲まれている。居間から少し視線が外れた所にトイレが設置されており、居間に居る方の目線を直接受けることがないよう配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 大きなテーブルだけでなく、小テーブルやソファ、座椅子、座布団等も利用してそれぞれが落ち着く場所に座っていただけるよう気を配っている。さり気なく座席を案内して、気の合った利用者さん同士が関わられるよう支援している。トイレや浴室は他利用者さんとトラブルにならないようゆっくり使用していただけるよう気を配っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真や、作品を飾ったり、好みの色のカーテンを選んで頂いたり、使い慣れた家具を家族に持ってきて頂き落ち着けるように工夫している。本人の希望に沿って居室内の家具の配置換えをしている。段ボールや空き箱等を使用して本人と一緒に本人が必要な好みの物入れ等を作り一緒に居室の片づけをしている。</p> <p>(外部評価) 個々に思い思いの居室作りが行われており、使い慣れたタンスや鏡台の持ち込み、作品や写真など自由に飾られている。仏壇にはしきびが飾られ、ご飯などのお供えもされている。本人の思いを大切にした支援が行われている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレはわかり易いように大きく「トイレ」と表示している。洗濯機は使い方の手順をわかり易く表示している。居室のテレビのリモコンを自分で操作できるよう使い方を表示している。車椅子でもタンス内の衣類を自分で出し入れできるよう家具の配置を工夫している。食事の時間等が分かるよう居室内に大きく表示している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000190		
法人名	有限会社 ユニット・ワン		
事業所名	グループホーム ユニットぐんちゅう		
所在地	伊予市米湊字西窪1131-3	(電話)089-946-7677	
自己評価作成日	平成22年 10月 5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会		
所在地	松山市持田町三丁目8番15号		
訪問調査日	平成22年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者一人一人が安心して笑顔で暮らせるように、個々の思いを感じることができるよう、一人一人のペースを大切にしている。②職員・他利用者・地域の方等との触れあい・関わり・会話を大切にしている。③生活の中で利用者が自分の力を発揮できるような支援を心がけている。家族との関わりを大切にしている。④玄関・室内に季節の草花をいけたり、玄関ホールで生き物を飼育したり、中庭で花・野菜等を育てたりして、心豊かに過ごしている。近所への散歩・ドライブをしながら自然との触れあいを大切にしている。⑤ボランティアの受け入れを積極的にを行い、地域の方々との交流を深め、気軽に訪ねていただけるような雰囲気づくりに努めている。⑥職員が積極的に研修に参加し、学んだ事をカンファセンスで共有し、認知症のケアの質を高めていこうと努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路沿いの、周囲に自然が残る静かな郊外に建てられた2ユニットの平屋である。玄関まわりの前庭には、近くの高校の協力による園芸療法の家庭菜園が広がっており、季節ごとの野菜を入居者とともに育てている。シンボルツリーのような柿の木は、赤く色づいた実が枝いっぱい実り、今年も入居者と干し柿作りをするための収穫の時を待っている。入居者個々の特技を活かせるよう、職員が支援を行っており、一人ひとりと向き合える時間を大切に考えている。自然の光が射し込む吹き抜けのリビングは入居者同士の憩いの場になっており、絶えず人の話し声や笑い声が心地よく響いている。毎朝、体操を2ユニット合同で行っており、ホーム内全体で交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ユニットぐんちゅう

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)
氏名 武智 美知子

評価完了日 22 年 10 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で話し合った後、「その人らしく安心して地域の中で馴染みのある生活を支援する」という地域密着型理念をつくり、スタッフルームの目につく場所に貼り出し、全員が理念を共有できるように努めている。日々の介護の中で細かい情報の共有を図りながら、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 理念の実践につなげるために、職員全員で話し合いを行い、毎月目標を立てている。事業所の理念、毎月の目標は日頃から目に触れる所に掲示し、毎朝ミーティング時に唱和し、職員全員の意識に浸透させている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 数年前より米湊地区にも組入りし、総会や研修会・文化祭の行事等にも積極的に参加している。回覧板を回すこともあり、コミュニケーションを大切にしている。地区の住吉祭踊りには毎年参加、折り紙教室にも毎回参加し、地域の方々とのつながりを大切にしている。又、愛護班活動にも毎回協力している。</p> <p>(外部評価) 集会所で行われる催し物に参加したり、高校生による園芸療法の実施、同法人内のホーム協同で行う運動会や秋祭りなど、季節行事を通じて近隣住民との交流を図っている。また、ストーンアートや姫だるま作りなど、ボランティアの受け入れも盛んで地域とのつながりが定着してきている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 面会者や訪問者、又ボランティアの方に、認知症の人の理解や支援方法をわかりやすく話し、協力を求めている。又、地域運営推進会議でも話をし、一緒に食事等しながら触れ合う機会を持ち、利用者がより安心して生活できるように努めている。愛媛新聞の「認知症の理解」の切り抜きノートあり、希望者に開示している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度の会議では、その間の主な行事を報告し、写真 を見てもらって利用者の生き生きと生活している様子を知っ ていただいている。又サービス評価の結果報告を毎年行い、 参加者より意見・助言をいただいて、サービスの向上に活か している。家族からの意見も大切にしている。	
			(外部評価) 会議を通じて、災害時の協力依頼や役割分担を行ない、ま た、行事に合わせて開催することで入居者とコミュニケー ションを図る機会を設けるなど、開催時期についても工夫さ れている。司会進行を職員が交替で行っており、職員のスキ ルアップにも繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市からの文書は確認を行い、市開催の会議には毎回参加し、 疑問点は質問し連絡を密に取っている。毎月入居予約状況 を名簿作成し、市役所にFAXしている。事故が起きた場合 には、事故報告書・今後の取り組み方針を提出している。地域 運営推進会議にも毎回市役所長寿介護課からの出席者あり、 顔馴染みとなっている。	
			(外部評価) 毎月、入居者やボランティア受け入れ状況等について報告や 連絡を行っている。市を挙げて熱心に会議や勉強会が開催 されており、情報交換や相談など交流が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員勉強会にて身体拘束に関する具体的な行為を再確認し、 廃止に向けて日々取り組んでいる。身体のみならず言葉かけ にも気を配り、言葉による拘束もしないケアを行っている。 ただ、以前に行方不明者が出て社協他捜索願いを出したこと がある為に、必要時のみ玄関の施錠をさせていただいて いる。	
			(外部評価) 身体だけでなく、言葉による拘束も行わないよう職員が理解 して心がけている。不穏な行動がみられる時には、職員が付 き添って歩いていくこともある。安全面から、必要最低限の 範囲で玄関の施錠は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し知識を広めている。新聞・ニュース等での事件について、その都度ミーティングをし防止策について話し合っている。管理者から日頃より接遇に気をつけ尊厳を守る事の大切さの教育あり。他、利用者・職員から相談の機会あり。日頃から利用者の身体観察に努めている。又、元民生委員の来訪で相談の機会も多い。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修には参加しその後、事業所内研修を開催 職員間で知識を共有している。身寄りのない利用者もあり、心配事には親身になって相談にのるよう努めている。今後、必要となれば地域包括支援センターとも連携をとっていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書に沿って内容を十分に説明し、質問にはわかりやすく説明し、不安や疑問が生じないように努めている。家族に納得して頂き同意の上書面に契約手続きをしている。又利用中の料金改正・契約内容の変更があれば、その理由を説明の上、同意を得ている。経済的に不安のある家族にも親身に相談にのる様、努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域運営推進会議の定期的な開催やイベントには、家族にも参加して頂き、その際 率直な意見を頂いている。日々の生活の中で、利用者の意見・希望を大切に受け入れている。又遠慮されがちな家族や外部の人の為意見箱を設置し、より多くの意見・要望が出してもらえよう配慮している。これら意見を前向きに反映させている。 (外部評価) 運営推進会議に参加される家族が、毎回決まった方にならないよう配慮し、意見が聞けるようにしている。行事案内は必ず行っており、面会時や行事参加の際に、管理者からも声かけをし、要望について聞くようにしている。家族会についてのアンケートを行い、家族の希望を聞いており、家族会開催に向けて、準備の段階にある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 毎月1回のケアカンファレンス時には職員の意見を聞き、定 期的なホーム長・主任リーダー会議等で代表者に伝え、改善 すべき事は改善している。又利用者からの意見も伝えてい る。代表者・管理者は日頃から困っている事はないか、一人 一人に聞く姿勢を持つようにしている。 (外部評価) 管理者は、パートを含む全職員参加の会議でも意見を聞いて いるが、個別の意見や要望も大切に考え、日頃から話をする 時間を設けたり、聞ける姿勢を常に持っている。職員から出 た要望や意見は、法人で行われるホーム長会議で検討されたり 、法人代表に管理者から伝えられている為、職員は管理者 を信頼して発言できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 資格取得を勧め、資格取得者には手当での支給あり。代表者 は管理者を通し、職員個々の努力・実績・勤務態度を把握 し、昇格・昇給等につなげている。又個々に提出した研修報 告書等でも、能力を把握している。よって職員は向上心を 持って毎日働いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は各職員へ 資格取得・研修参加を積極的に勧めている 。実践者研修等、日勤扱いで研修に参加している。職員全 員がホームヘルパー2級以上の資格を取得できるよう、勤務 体制を整えながら、研修に参加させている。毎月ケアカン ファレンス時には、認知症の理解に関して勉強会を開いてい る。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協議会に加入し、伊予市グループホーム協議 会主催の研修会・行事には毎回参加している。顔なじみとな りつつある同業者と、意見交換・情報収集をしながら、交流 を深めている。相互研修にも参加しており、以前行った相互 研修先と現在も交流あり。同会社内のグループホーム間でも 相互研修を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前アセスメントには十分時間をとり、本人・家族 の思い・希望を十分聞き取る努力をしている。初期段階での 環境の変化に戸惑わないよう、本人に寄り添いながら、ゆっ くりと話す機会を設けて、安心して生活していただけるよう 支援している。十分な観察により、表情の変化に気付くよう にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の希望を聞き、それを情報交換ノートに明記し、職員間での情報の共有を図り、家族が安心できるように努めている。面会時には職員一人一人が、家族と挨拶しコミュニケーションをとりながら、本人の気持ち・状態をまめに連絡している。万一家族間、本人と家族で意見の違いがあれば、プライバシーに配慮して相談にのっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 通所介護ではお試し日の利用もでき、体験していただいている。できる範囲で本人・家族が必要としていることを見極め、担当ケアマネージャーとも密に連絡を取り合っている。又主治医と相談をしたり、鍼灸の訪問治療も開始するケースもあり、家族等と相談をしながらすすめていっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 毎日の掃除・調理・洗濯物・手作業等、本人のできる力を十分発揮していただきながら、みんなの役に立っているという、充実感を持っていただいている。排泄介助時でも、本人の持っている力の発揮により、職員も助かっていることを伝え、より良い関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) いつでも面会に来ていただいている他、行事・イベントには家族へも連絡をとり、本人と一緒に楽しんでいただきながら、共に本人を支えていく関係を築いている。毎月家族への近況報告をし、要望事項等あれば連絡・相談し、共に本人を支えていく関係作りを築いている。手紙他にて、家族からの返事等あり。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き、伊予市内へのドライブ・行事にも参加できるように努めている。誕生日企画では計画と一緒に立て、馴染みの場所へ行ったり会いたい人と連絡を取り合っている。季節毎に絵葉書をつくり、家族や知人へ出している。本人の希望にできるだけそえるように、職員間で話し合い、実行してきた。毎月1回馴染みの場所での外食を楽しむ利用者あり。 (外部評価) ほとんどの方が地元からの入居であり、昔馴染みの環境の中、生活されている。行きつけの理髪店が、入居後は訪問してくれたり、希望の理髪店に行く場合は職員が支援し、関係が途切れないようにしている。職員の異動も数年なく、入居者もこの1年間で1名の退去のみで顔馴染みの関係作りが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) この一年間の退去者は一名にとどまり、利用者同士すっかり顔馴染みになっている。頂き物をお裾分けしたり、部屋に招いて話をしたりする場面が多く見られている。又リハビリ運動時には互いに励まし合う事もあり。職員が間に入ることで、助けあったり話をするきっかけづくりができています。常に気を配り場の提供をしたい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院により、退去となった場合でも職員は見舞いに行き、家族の相談にもものっている。ショートから、通所介護に変わった場合は家族や担当ケアマネとも密接な話し合いを十分に持ち、本人の為に相談・支援をしてきた。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の思いや希望を十分に知る為 利用者個々に担当スタッフが決められている。よってより細かな情報を得る事ができ支援にもつなげている。得た情報は情報共有ファイルに記録し職員全員が把握している。 (外部評価) 担当者制だが、全員が情報共有出来るよう、利用者ごとに気づきや要望など、詳細に記載されたファイルを整備し毎日申し送っている。日頃から入居者との時間を大切に、個別に話せる時間や場所をつくっている。疎通が困難な場合でも家族に開いたり、表情やしぐさから汲み取ろうとするなど、努力が伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの生活歴を知る為、本人・家族やケアマネージャーに情報を提供してもらっている。面会時もコミュニケーションをとりながら、あせらず情報の把握に努め、利用者本人の背景を知るようにしている。こちらからも面会時や毎月の家族へのお便りにて近況を知らせ、安心していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別に一日の過ごし方を記録し、本人の有する力・理解力をレクレーションや日々の生活の中で引き出し・再発見し、申し送り帳に書くなどして、職員全員に情報提供し全員が把握するようにしている。又家族へも面会時写真を見せたり、近況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃の関わりの中で本人や家族の思いや意見を聞き反映させるようにしている。朝夕の申し送り時や日々の話し合い、月一回のミーティングの中で本人の状態やケアに対する気づきを伝え合い、意見交換やカンファレンス等をしている。毎月のモニタリングを担当者が行っており、新たな課題がある時は随時話し合い対応を決めている。 (外部評価) 家族からの意見も聞き入れながら、情報共有のファイルの内容と共に、職員全員で検討している。目標の達成度について、1つ1つ利用者から評価を受け、担当職員の評価と総合し、毎月プランの見直しを行っている。3ヶ月に1回は、達成度に応じて現状に即したプランに立て直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言葉を大切に記録している。朝夕の申し送り時や申し送りノートを利用してその情報や気づきを共有し、本人の言動に込められている思いを皆で考え、実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 現在、認知症対応型通所介護を1日3名まで受け入れている。家族の要望があれば、10時間まで延長して利用できる。入居者が入院中は家族の了解の上、ショート受け入れも行っている。本人の状態や家族の状況に応じ、福祉用具の購入・通院・買物・美容院・墓参り等の同行送迎を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業利用の方が安心して生活できるよう社協との連携を密にしている。民生委員さんとの関わりで敬老会に参加でき、馴染みの方との再会を楽しめる。馴染みの理髪店に通えるよう支援している。伊予農生のボランティアも馴染みの関係になり楽しみにされている。年2回は消防署員の立会のもと、避難訓練を行っている。地域の公民館での作品展には毎年出品して展示していただいおり、地域の方の作品を見に行くのを楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医とは毎日のように連絡を取り合い、定期的な訪問診 療・往診他行っている。主治医以外の専門医(歯科・眼科・整 形外科・泌尿器科)にも、必要時には本人・家族と相談の上 受診している。本人の病状・状態を報告し、適切な医療が受 けられるようにしている。 (外部評価) 希望する医療機関で受診できるように支援している。家族が 同行できない場合は職員が支援を行っている。受診結果は情 報共有のファイルに記載され、全職員が状態を把握できるよ うにしている。協力医の往診が月2回あり、定期健診も実施 している。協力医と連携を図りながら、適切な医療が受けら れるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日2回のバイタル測定により、異常の早期発見に努めてい る。介護職員は看護師に日々の利用者の状態を報告・相談を 行い、異常時には病院へ連絡を行い、主治医の指示を仰ぎ、 受診や往診を受けられるようにしている。訪問診療時にも医 師・利用者につき添い、適切な診療を受けられるようにして いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、職員が同行し病状・ADL・GH内での状態等を病院関 係者に情報提供している。定期的に見舞いに行き本人の慣れ ない場所でのストレスや負担を軽減し安心できるよう支援し ている。また、本人・家族の相談にも応じている。退院時に は、病院関係者から得た情報を職員間で検討し受け入れ体制 を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期の利用者に対し早い段階から主治医、本人、家族との 話し合いの機会を何度もとった。出来るだけ長くホームで生 活したいという希望により本人の体調変化をみながら受け入 れ先病院とも連携を図りながら支援した。 (外部評価) 外部の研修会で得た知識は、事業所内でも勉強会を行い、職 員間で共有している。事業所として看取りの経験はないが、 法人で看取り指針を作成し、方針について家族に説明を行っ ている。入居者に対する職員の気持ちは強く、個人の希望を 叶えたい思いはあるが、指針で掲げている内容と事業所に対 応できる実情には温度差がある	重度化した場合の、利用者・家族の思いや意向と、事業所での 対応が一致するよう、方針の明確化が望まれる。出来ない ことの明文化により、さらなる職員間の意識統一を期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 一日二回のバイタルチェックや状態観察にて、異常の早期発見に努めている。消防署で行われる救命講習を職員全員が受講できるよう交代で受けている。ミーティングで看護師による応急手当や初期対応の指導あり。夜勤帯の緊急対応時では、緊急連絡網に従いスムーズな対応ができています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域運営推進会議で話し合いあり。災害時の避難先・避難方法を確認し協力依頼を行った。避難訓練は、年2回消防署員立会の元に行い避難誘導・消化訓練等 職員全員が勉強した。近隣の方の参加も増えている。非常用持ち出し袋を備えており飲食料は消費期限の確認を行っている。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと、夜間・昼間を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議を活用し、近隣への協力依頼を行い、住民・民生委員との取り決めや相互協力の関係作りを行っている。入居者にもビデオ学習を行うなど、全員で取り組もうとしている姿勢が伺える。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進んでいる利用者にも、否定せず理解していることを示しながら対応している。接遇に関して気になる時には、その都度 管理者からの教育あり。訪室時のノックはもちろん着替え・トイレ・入浴時の対応には特にプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。個人的な話をする時は本人の居室で行っている。 (外部評価) 排泄時や入浴時など恥ずかしい思いをさせないように声掛けにも注意を払っている。馴れ合いにならないように職員間同士でも注意しあっている。個人を尊重し、職員が判断するのではなく、本人の意思確認を行ってからケアに当たるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中からだけでなく、本人のちょっとした表情にも気を配りながら何を思い何を希望しているのかを把握している。誕生日企画には、自己決定が出来るよう働きかけている。集団の中では自分の気持ちを表現出来ない方や遠慮がちの方には、1対1で話す場を作り希望等を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの一日のスケジュールはあくまで目安であり、利用者のペースを優先した支援を大切にしている。健康体操・レクリエーションの参加は、強制ではなく本人の気持ちを大切に考えている。起床・就寝時間は本人のペースで、食事時間にも食欲の無い方には、時間をずらす等の配慮をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出や誕生日等の特別な日には、本人の好みのその人らしいおしゃれを楽しんでいただいている。カットや毛染めの際には、必ず好みを聞くようにしている。よく似合って素敵であると褒めてさしあげる。行きつけの美容院・理容店に行く利用者あり。自ら洋服を選ぶ事が困難な場合にも何点か用意し表情を伺うようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下準備や配膳、盛り付け等 その人の能力を大いに発揮していただけるよう声掛け、セッティングをしている。車椅子利用者には、お盆拭き・テーブル拭きができるよう支援している。一緒に作るおやつ作りも楽しみのひとつである。食事は職員も一緒にとり楽しい会話をしながらいただいている。毎月15日は、利用者に食べたい物を聞いて献立を立てている。 (外部評価) 入居者がそれぞれ役割を持って協力し合いながら、準備や後片付けを行っている。食事中も職員や入居者同士の会話があり、和やかな雰囲気である。献立は栄養士が作成しているが、毎月15日は入居者の希望を聞いてメニューを決め、買物から一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主治医の指示に従い栄養バランスの偏りのある利用者には、エンシュアやパナを摂って頂く。日々の記録をチェックしながら食事時以外にも朝の体操後、午後のおやつや必要時 舌の状態観察をしながら水分確保に努めている。夜間は各居室にペットボトル・やかん・コップ・吸い飲みをそれぞれに合わせて用意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアの支援をしている。介助が必要な利用者には、セッティング・声掛け・介助を行っている。就寝時には、入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。定期的にコップ・歯ブラシのチェック・消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) それぞれの排泄のリズムを把握し、またしぐさを観察し、失禁なくトイレで排泄していただけるように声掛けし、誘導を行っている。夜間、おむつ使用の利用者でも訴えがあれば、トイレ誘導を行っている。夜間のみPWC利用者2名。排泄後の清潔保持に除菌ウエットティッシュを用意している。	
			(外部評価) 個別に排泄記録を行ない、排泄のリズムを把握しながら自立に向けて、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日排便の有無を確認し記録している。便秘の者にはナースと相談しバナナ・ヨーグルト・繊維質の物を食べていただく。無理のない範囲で散歩・運動をすすめている。頓服の便秘薬を用意しており、必要時服用していただく。訪問診療にて浣腸をすることあり。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2日に1回のペースでゆっくりと入浴をしていただいている。時間は本人の希望を聞き、その時間帯になるべく入浴していただけるようにしている。体調が悪く、入浴が出来ない日でも、本人の希望があれば足浴、清拭・洗髪を行い、清潔に過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 2日に1度のペースで入浴を行っており、朝10時半から夕方17時までの時間帯で希望に沿って対応している。入浴拒否の場合も、タイミングを見計らいながら声掛けに工夫して対応している。個人の状態に合わせて支援しているが、安全が確認できた場合は、一人で湯船に浸かる時間を設け、入浴が楽しめる配慮を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は、利用者本位としている。夜間だけでなく、日中でも利用者の希望があれば、いつでも休んでいただけるようにしている。訴えない利用者でも、表情を観察し、声掛けで休んでいただくようにしている。居室の証明・温度調節にも気を配り、気持ちよく休んでいただいている。本人愛用のソファや座椅子を用意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の処方箋を個人ファイルに毎回綴じて、職員のたれもがいつでも確認できるようにしている。新しい薬の開始時や終了時は、連絡ノートに記入し、全職員で情報を共有している。服薬時の見守り確認を確実にやっている。状態に変化がある時は、すぐにGH看護師や主治医に相談して対応している。飲みやすいようオブラート使用の者あり。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味の俳句作りをしている利用者には、作品を地域の文化展に出品し本人に達成感がみられた。野菜作りが得意な利用者は園芸セラピーの先生や生徒さんと相談しながら草引き・野菜の育成・収穫を楽しみにしている。アセスメントや面会時の家族からの話、本人自身の話から得意な事や興味のある事を引き出し披露できる場を提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候のよい時には、庭に出たり近くを散歩して、自然を体中で感じて頂けるよう支援している。また、近所の方との触れ合いも大切にしている。地域の集会所で行われている折り紙教室にも毎回お誘い頂き参加している。誕生日には本人や家族とも相談して、できるだけ本人の行きたい所に行けるように支援している。2週間に1度「買物の日」とし商店街やスーパーに出かけている。 (外部評価) 家庭菜園の手入れをしたり、洗濯物干しなど、日常生活的に外に出て外気に触れている。近くを散歩したり、スーパーへ買物に行くなど、近隣住民とのつながりも大切にしている。誕生日には担当者が、行き先や食事、プレゼントに至るまで全行程、本人の要望を踏まえながら企画し1対1で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望を大切にし、家族と相談のうえ、本人に所持して頂いたり、小額を預かり必要な時にお渡ししたりしている。2週に1度「買物の日」を設け近くのスーパーや商店街に出かけ必要なお金を使えるよう支援している。なるべく金銭の授受は本人にして頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人自ら家族や友人に電話する者あり。また、かかってきた電話は居室に切り替えゆっくり話をして頂いている。年末には年賀状を希望者には書いていただき、家族とのやりとりを楽しんでいる。自分から書かれた手紙やスタッフに勧められ書き上げた手紙等速やかに届けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を生けたり、絵画をかけたり、利用者さんと一緒に大型カレンダーを毎月作ったりして室内でも季節を感じてもらえるよう工夫している。エアコンの温度調節をこまめに行い、利用者が気持ち良く過ごせるよう配慮している。清掃時等換気には気をつけている。また、歩行の妨げとなる障害物を置かないよう環境整備に気をつけている。</p> <p>(外部評価) 玄関や居間など、季節の花が飾られ、入居者の作品からも季節感漂う工夫がされている。居間で過ごされる方は多く、入居者同士や職員との談話で心地よい音に囲まれている。居間から少し視線が外れた所にトイレが設置されており、居間に居る方の視線を直接受けることがないよう配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 大きなテーブルだけでなく、小テーブルやソファ、座椅子、座布団等も利用してそれぞれが落ち着く場所に座っていただけるよう気を配っている。さり気なく座席を案内して、気の合った利用者さん同士が関わられるよう支援している。トイレや浴室は他利用者さんとトラブルにならないようゆっくり使用していただけるよう気を配っている。冬には掘りコタツでくつろいで頂いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真や、作品を飾ったり、好みの色のカーテンを選んで頂いたり、使い慣れた家具を家族に持ってきた頂き落ち着けるように工夫している。本人の希望に沿って居室内の家具の配置換えをしている。段ボールや空き箱等を使用して本人と一緒に本人が必要な好みの物入れ等を作り一緒に居室の片づけをしている。</p> <p>(外部評価) 個々に思い思いの居室作りが行われており、使い慣れたタンスや鏡台の持ち込み、作品や写真など自由に飾られている。仏壇にはしきびが飾られ、ご飯などのお供えもされている。本人の思いを大切にした支援が行われている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレはわかり易いように大きく「トイレ」と表示している。洗たく機は使い方の手順をわかり易く表示している。居室のテレビのリモコンを自分で操作できるよう使い方を表示している。車椅子でもタンス内の衣類を自分で出し入れできるように家具の配置を工夫している。食事の時間等が分かるよう居室内に大きく表示している。握力が弱く車椅子自走が困難な利用者にハンドリムにゴムを巻き、握り易くした。</p>	